つくれる つながる むさしのセッション Season 1 の記録

1　全 4 回の流れ

第 1 セッション　みんなで語り合おう
第 2 セッション　チームで企画を考えよう
第 3 セッション　企画を完成させよう
第 4 セッション　プレゼンで想いを届けよう

2　第 1 セッション

＜ 日 時 ＞ 2 月 17 日（土）午後 2 時～ 5 時@西久保コミュニティセンター
＜参加者＞ 30 名（一般 19 名、協議会 8 名、市職員 3 名）　※企画委員と事務局除く
＜ テーマ＞ まちのことを知ろう、みんなで語り合おう

はじめは緊張した表情の参加者も、お互いに話しはじめると次第に笑顔が広がりました。
ゲストスピーカーとして、田中雅文さん（武蔵野の森を育てる会）と、山中敦志さん（Meet むさしの）をお招きし、日々の地域活動のなかで大切にしていることなどのお話も伺いました。

＜当日のタイムテーブル＞

時間	内容
14：00～	■事務局挨拶（市コミュニティ研究連絡会会長／市民活動推進課長） ■グループで自己紹介（お名前、お住まい、最近の小さな幸せ） ■オープニング ・今日のゴールは「まちに関する面白さを知り、自分も関わりたいと思えている」 ・今回意識したいことは“きく（傾聴と質問）” 聴くときは聴くに徹しよう 相手の訊いてほしそうなこと（相手がイキイキ話せること）も訊いてみよう
14：30～	■山中敦志さんと田中雅文さんのトークショー（前編） Q1．なぜ自分で活動しようと思ったのか（他の誰かがやってくれるかもとは思わなかったのか）？ ・田中さん→当初は自発的に始めたわけではなく、上司に言われたので引き受けたという形だった。今は完全に自発的に取り組んでいる。 ・山中さん→カリフォルニアでの在学中の風土の影響か、ボランティアに取り組んでいるという意識はあまりなく、やりたいことをやっている、そこにニーズがあるなら取り組むという動機。 Q2．活動を始めて得た気づきは？ ・田中さん→森がコミュニティを育ててくれているという発見があった。自分たちが良いと思っている取組みも、地域の住民や行政から理解を得て合意形成を図るのはとても大変（萌芽更新のための伐採など）。 ・山中さん→インタビューを通して、思いもよらない想いや考えに触れることがある。インタビューを進めると、人の紹介などでどんどん関係がつながっていくことがある。最近は団体の政治的なスタンスを問われることもあり驚いた。 Q3．活動するうえで大切にしていることは（①ご自身で／②人との繋がりで）？ ・田中さん→①楽しんで取り組むこと　②団体のミッションと、参加者個人のミッション（参加の動機）の重なる部分をつくっていくこと ・山中さん→コミットメントしすぎない。ゆるくつながる。
15：00～	■グループインタビュー　第 1 ラウンド トークを聴いての感想・気づき・学び、私こんなことを考えている、このイベントに参加しようと思ったきっかけなどを、グループで話し合う。

16：00～	■山中敦志さんと田中雅文さんのトークショー（後編） Q1．仲間を集めるコツは？ ・田中さん→一生懸命取り組むこと（情報発信も活動自体も）。直接声をかけていくこと。 ・山中さん→これまで広く仲間を募ってはこなかった。書くことに興味のある方に声をかけて仲間に入ってもらったりしてきた。 Q2．自分たちの活動を知ってもらうためのコツは？ ・山中さん→記事を web に載せて終わりではなく、SNS で発信を続ける。Twitter は強力と感じる。 Q3．代表ならではの大変なことは？ ・田中さん→会としての合意形成を丁寧に行っていくこと。 ・山中さん→あえて代表を置かないこととしているが、2 ～ 3 年後にどんなことをやっていきたいのかというビジョンを提示することを大切にしている。 Q4．（田中さんへ）学生ボランティアには、どのようにアプローチしたのか？ ・田中さん→イベントに来てくれたボランティアセンターの方が活動を面白いと思ってくれて、その方が各大学に働きかけてくれたことが発端。今はボランティアサークルの代表に情報提供して、参加者を募ってもらうなどしている。 Q5．（山中さんへ）ゆるいつながりについて。ミーティングなどはどうしているのか？ ・山中さん→定例的なミーティングは開催しておらず、LINE でコミュニケーションをとっている（この人面白いと誰かが発言したら、誰かが反応してといった具合で）。 Q6．参加者のみなさんへのひと言 ・田中さん→まずは気楽に参加してみることから。自分で取り組みたいことがある場合、“ひとりになっても楽しくできること”から始めるのが良いと思う。 ・山中さん→面白そうと思うものがあれば、行ってみることが大切だと思う。1 人にノックしたら、3 人くらいにつながるかもしれない。
16：20～	■グループインタビュー　第 2 ラウンド 第 1 ラウンドと同じテーマでグループワーク。
16：55～	■振り返り（90 秒考えて、簡単にグループ共有） ・気づき・学び・行動宣言 ・私の“きく”は何点？

＜会場の様子＞

▲田中雅文さん(左)、山中敦志さん(右)

3　第 2 セッション

＜ 日 時 ＞ 3 月 2 日（土）午後 2 時～ 5 時@西久保コミュニティセンター

＜参加者＞ 32 名（一般 22 名、協議会 7 名、市職員 3 名）　※企画委員と事務局除く

＜ テーマ＞ 仲間を見つけよう・チームで企画を考えよう

自分がまちでやりたいことを簡単な言葉にして紙に書き、それを持って部屋のなかを歩いて「面白そう」、「似ている」、「一緒にやりたい」と思える仲間探しを行いました。結果、6 つのチームがうまれ、「何がやりたいか」、「理想はどんな姿」かなどについて、チームごとにアイデアを出し合いました。

＜当日のタイムテーブル＞

時間	内容
14：00～	■オープニング ・今日のゴールは「チームで実施したいと思えるアイデアについて、メンバー全員が納得するまでアイデアを出し切れた」状態になっていること。 ・今回意識したいことは”きく（聴くと訊く）”に加えて、“かく（書くと描く）” ・同じ情報を見ながら話が進められること大切 ・自分の意見が場に残っているという安心感 ・箇条書きで OK／要約しなくて OK（主観を入れないことが大切） ■グループで自己紹介（お名前、お住まいなど） ■第 4 セッションでのプレゼンに向けて ・考えた企画への市とコミセンからのサポート ① 相談できる！ ② コミセンを会場として利用できる！ ③ 市民向け広報を支援できる！（Facebook） ・プレゼンで求められるのは想い。 ・この学びの場はきっかけづくり。これ以外で集まっていただくのも大歓迎。
14：30～	■ぺちゃくちゃタイム（グループでフリートーク） 前回の率直な感想、疑問、想い（こんなことやりたい、やりたいけど困っている）
14：45～	■マグネットテーブル（チームづくりの全体ワーク） ・「私は武蔵野市でこんなことをやりたい！」…をそれぞれ“パット見て伝わるように”A4 用紙に書く（キーワード） ・A4 用紙を掲げて、部屋のなかを歩きまわる 似ている／興味が湧いた／面白そう…と思える人を探してみよう。 「一緒にやりませんか？」とお誘いするも可。各チームは、4 ～ 5 人がおすすめ。 →6 つのグループができた。
15：30～	■休憩
15：45～	■私のトリセツ（グループワーク） “私”についての取扱説明書を書いて、グループで共有。 ①話す or 聴く、どちらかといえば○○が好き・得意 ②チームでの活動時、私はリーダー系 or フォロー系 （私が好き・得意なチームへの貢献の仕方） ③私が参加しやすい⇔参加しにくい話し合いの雰囲気・進め方 ④私がミスしたとき、こんな風に指摘してほしい

16：00～	■グループ共有タイム（グループワーク） ・自分が A4 の紙に書いたことの紹介、理想のイメージを共有、そのために踏みたいアクションのアイデアを発散 ＜コーディネーターからのアドバイス＞ ・企画会議は、理想とアクションを行き来するもの ・次回の打合せに向けても、書いておくことは大切
17：00～	■振り返り ・今日の感想 ・私の“きく”と“かく”はそれぞれ何点？

＜会場の様子＞

▲自分がやりたいことを書いた紙を持って歩いて仲間探し（チームづくり）

◀できたチームのなかでアイデアを出し合う

4　第 3 セッション

＜ 日 時 ＞ 3 月 16 日（土）午後 2 時～ 5 時 ＠武蔵野商工会館ゼロワンホール

＜参加者＞ 30 名（一般 21 名、協議会 6 名、市職員 3 名） ※企画委員と事務局除く

＜ テーマ＞ 企画を完成させよう・プレゼン準備をしよう

ファシリテーションのコツや心得について説明を受けた後、前回つくったチームで、たくさん話し合いを行いました。参加者 1 人ひとりが、ファシリテーションを意識した場づくりに挑戦しました。

＜当日のタイムテーブル＞

時間	内容
14：00～	■ぺちゃくちゃタイム ・前回つくったチームのメンバーとおしゃべりする時間 （お名前やお住まい、普段していること、最近あった小さな幸せなど）
14：10～	■今日の「つなぐ力」はファシリテーション ・前回まで”きく（聴くと訊く）”と“かく（書くと描く）”を意識してきた。 ・今日は“ファシリテーションを意識してすすめてほしい。 ＜ファシリテーションとは？＞ ・場に生じる“もやもや”に気付いて、“もやもや”を解消するために働きかけること ・“もやもや”は人が集まるところにはどうしても生まれるもの ※ モヤモヤに気付く例…伝わりづらいかな？○○さん、なにか言いたそう！ ※ 働きかける例…○○さん、どうですか？内容をまとめてみる。 ・議論のなかで、中立であることが大切 ＜ファシリテーションを通して目指すのは？＞ ・参加者が話しやすい場（主体的に参加できる場）をつくること （話しやすい、ききやすい（聴くと訊く）、見やすい、分かりやすい、まとめやすい、思い出しやすい、追いつきやすい） →ファシリテーションを意識した参加者が増えていくのが理想 ＜ちなみに、司会とファシリテーターの違いは？＞ ・ファシリテーター：場のゴールの実現すること ・司会：時間どおりに進行すること ■そのほか ・ゴールを意識して取り組むこと 終わった後にどんな状態を目指すか、誰にでも分かる言葉で表現できると良い。 ・役割分担を決めておくと良い。 あらかじめ役割を決めておくと、不必要な“もやもや”がうまれにくくなる。 （情報提供役、タイムキープ役など） ■今日のゴール ・前回まで「交流」や、想いや考えの「発散」をしてきた。 ・今日は、理想のイメージや、そのために踏みたいアクションを絞る「収束」の時間。 ・前回つくった模造紙を見ながら、話していたことの抜け漏れがないか確認して、アイデアの追加もしながら、話し合いを進めてほしい。
14：30～	■グループワーク
14：50～	■プレゼンテーションについて ・プレゼンテーションは、各チーム 6 分間

	・発表のスタイルは自由（言葉だけでも、スライドや模造紙を使うもOK）。 ・発表内容に必ず入れてほしい3要素がある。 ①（理想）…なんのために？ ②（対象）…誰に届けたい？誰に参加してほしい？ ③（アクション）…何をするのか？（複数でもOK） ・実現可能性よりも、熱い想いを伝えることが大切。プレゼンはプレゼント！ ・チーム名を決めると良いかもしれない。 ■プレゼンの準備の段階について 以下の3つのゴールを順に1つ図クリアしていくようにする。 ①プレゼンに必ず入れてほしい3項目＋αを出し切った。 ②プレゼン方法や型、役割が決まった。 ③プレゼンが7割完成し、誰かに聴いてもらえる状態になった。 →③に到達したチームは、周りの市の職員やコミセンのメンバーに披露 フィードバックをもらって、さらにブラッシュアップを進めてほしい。
14：55～	■グループワーク（プレゼン内容の披露とブラッシュアップ）
16：00～	■各チームの進捗報告 ■グループワーク（プレゼン内容の披露とブラッシュアップ） ■最後に各チームで振り返り

＜会場の様子＞

5　第 4 セッション

＜ 日 時 ＞ 3 月 24 日（日）午後 2 時～ 4 時　@かたらいの道市民スペース

＜参加者＞ 28 人（一般 19 人、協議会 6 人、市職員 3 人）　※企画委員と事務局除く

＜見学者＞ 10 人（一般 3 人、協議会 7 人）

＜ テーマ＞ プレゼンで想いを届けよう・次の一歩を踏み出そう

各チームから熱い想いのこもった発表がありました。交流タイムや閉会後の歓談の時間は、時間終了のアナウンスがあっても話が尽きないほど、話が盛り上がりました。チームのなかには、企画の実現などに向けて、実際に次の打合せの約束をしたところもありました。

＜当日の内容＞

■オープニングとプレゼン準備時間
■発表①　武蔵野愛サイクル 理想：武蔵野愛 100% アクション：ふるさと納税の"市内を舞台にした体験型の返礼品"を市民の手でつくるプロジェクト →ふるさと納税した人が市内に 1 度は足を運ぶ→市内・市外の方の交流促進 →納税された額の一部をかかわった市民に還元→満足度・地域への愛着アップ →ふるさと納税による流出を減らし、寄付を増やす／活動を続けるためのお金を集める 返礼品の例：堀プロ（20 年かけて、みんなで市内に温泉を掘るプロジェクト） 街プロ（性別かかわらず出会いを大切にする場） 愛プロ（武蔵野で人や地域への愛を叫ぶ） ゆるキャラ（ゆるキャラをどんんどん認定して、日本一キャラだらけの市へ！）
■発表②　武蔵野 HKS 理想：老若男女誰もが自分らくし生きられる社会 アクション：社会と関わりを持ちづらくなってしまった人に、自己を表現できる機会や場所をつくる 具体的には… 感じたことを感じたまま発信できる、音楽とアートのワークショップ（3 日程度） 音楽をきいて絵をかく／絵をみて感じたことを言葉にする／劇などの台本をつくる・演じる・地域の方に観てもらう／絵本をつくる・つくった絵本の読み聞かせ／みんなで絵を描く　など →まずは 6 月にけやきコミセンで開催？
■発表③　むさしのフューチャーセッション 理想：誰も取り残さない／誰も取り残されない／皆が声を挙げられるまち アクション：誰でも入れるカフェ（サードプレイス／地域にあるリビングルーム）をつくる ・常設型、バリアフリー、駐車場併設、空き家活用、キッチン機能あり ・おしゃべり、会議、引きこもりや障がい者など当事者の話を聞く会、食事、飲み物、調理、就労体験、読書会、上映会などが開催できる（持ち込み企画歓迎） ＋場所を福祉団体や行政に貸し出して、現行の支援制度から漏れている人への支援につなげる →寄せられる声を集めて、必要な施策の検討も行える
■交流タイム（前半戦） ・きいた発表について、コメントを付箋に書いて、模造紙に貼りに行って交流する。
■発表④　むさしのリンクス 理想：武蔵野 *links*（思いを結ぶポータル機能）がほしい ・リンクワーカー（様々なテーマの市民活動団体を繋げる／相談にのってもらえる） ・各市民活動団体のイベントの情報を集約・予約もサイト上でできる アクション：・チームで運営できる、武蔵野 links の小さなサイトをつくる ・16 コミセンでイベントの開催（アートカードを使ったコミュニケーションのゲームなど）

■発表⑤　ごちゃまぜ Café
理想：誰もがほっとしに行けるような場所がほしい
アクション：ごちゃまぜ Café をつくる
・気が向いた時にふらっと行ける（常設）、困りごとを話せる、相談できる
・体と心が温まる食事ができる（美味しいお茶も！）
・集まった人と知り合って一緒に楽しめるしかけがある
（障がいのある方も／各々の得意分野を生かして）
・サスペンデッドコーヒーの文化も？
・お手伝いの方はワンドリンク無料（ひとりで来にくい方への付添い、イベントの企画）

■発表⑥　部室
理想：誰かに必要とされることを感じられる居場所づくり
アクション：部室をつくる（「ありがとう！」がきける場所）
・メンバー制（*20*～*50* 代の仕事に追われている方向け）
→職場とも家族とも異なる人だからこそ話せる／相談できる場
・時に集まり、持ち回りで 5 分程の講演（普通の講演会ではテーマにならないような）
→話す人は自信がつく、きく人も成長できる

■交流タイム（後半戦）

■クロージング
・事務局挨拶（市民活動推進課長／市コミュニティ研究連絡会長）
・コーディネーターよりひと言

■歓談のお時間（任意参加）

＜会場の様子＞